

令和3年度学校自己評価システムシート (県立東松山特別支援学校)

目指す学校像	1 自立と社会参加を目指し、障害特性や発達段階及び教育的ニーズに応じた教育を推進する学校 2 地域とともに共生社会の実現に向けて歩む学校
--------	---

重点目標	1 教職員の専門性の向上 2 安全安心な教育環境の整備 3 自立と社会参加に向けた指導の充実 4 開かれた学校づくりとセンター的機能の発揮
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	0名
	事務局(教職員)	4名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定。
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価		
年 度 目 標					年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<ul style="list-style-type: none"> 新学習指導要領は、昨年度より、各学部の授業づくりを深め、タブレット端末活用を推進し、授業実践を重視し、評価を一歩進め、さらに 	<ul style="list-style-type: none"> ①「主体的・対話的で深い学び」からの授業改善 ②太田ステージを活用した授業力の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ①「児童・生徒の将来を見据え、一人一人の実態に応じた課題を考える」をテーマに各学部に研究をすすめる。 ①タブレット端末を活用した授業実践について、研修会を実施する。 ②新任者研修会を実施し、全校で太田ステージを活用した分析をする。 ②太田ステージを活かし、アセスメントに基づいた授業づくりを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ①各学部の研究成果を全校で共有できたか。 ①夏季休業中を利用した全体研修が実施できたか。 ②全校で太田ステージの実施・分析ができたか。 ②各教員が評価を活用した授業を展開できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ①各学部のテーマに沿って年間8回の研修計画を実行し、①ICTと教育推進(6月)②タブレット活用(6月)③新しい研修会を4ヶ月当初に活用する体制を整え、②案や授業づくりの分析も 	A A	<ul style="list-style-type: none"> ①来年度より3年間全校研究へ取り組み、個々の教育環境や地域との関わりを含め、実践に活用する。また、ICT活用については、研修・指導実践を推進する必要がある。②引き続き太田ステージの評価を活用した授業づくりを生活能力の視点も取り入れ多角的に子どもを捉えていく。
2	<ul style="list-style-type: none"> 災害時に備えた引き渡し訓練、個人備蓄、学校備蓄の連携、防災教育をすすめる。 新型コロナウイルス感染症予防の継続的取り組み、環境づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ①PTAと連携して取り組む防災力の高い学校づくり ②コロナ感染症予防の教育・環境づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ①最新の防災研究を学ぶ機会を設ける。 ①避難訓練・引き渡し訓練を実施し、防災士より助言を受ける。 ②着用・3密回避等の根拠強い指導を継続する。 ②健康観察の徹底と衛生的な環境づくりを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ①教職員・保護者向けの共通した研修が実施できたか。 ①防災士を招いた訓練ができたか。 ②スモールステップですべての児童生徒に感染症予防教育ができたか。 ②感染防止対策ガイドラインに沿って、教育活動・安全な環境づくりができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ①防災士10名を招いての避難訓練・引き渡し訓練の実施(7月) ①外部講師による教職員向け防災研修会実施。保護者向け防災知識PWBセミナー(8月) ②毎日の健康チェック、発熱の児童生徒の個別対応、感染予防の徹底、感染防止の中止など迅速に対応した。 	A A	<ul style="list-style-type: none"> ①PTAと連携し、危機管理を中心に防災に関する意識改革、「想定外」を「想定内」に引き渡す。②引き続き必要である。②今後も「with コロナ」を意識した感染予防を日常的に徹底していく必要がある。
3	<ul style="list-style-type: none"> 各学部における教育課程(一般・重複・高等部)の改善が必要がある。 校外学習や実習など地域のなかで育つ力を育てる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ①教育課程上の課題と改善 ②社会参加に向けた学習活動の位置づけ 	<ul style="list-style-type: none"> ①現状の課題を把握し、教育課程や授業改善の議論をすすめる。 ①自立活動の時間における指導の改善を行う。 ②校外での学習、奉仕活動、実習など社会とのつながりを意識した取組を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①教育課程に係る改善結果を全校で共有できたか。 ①発達段階に応じた自立活動指導が定期的に実施されたか。 ②社会参加に向けた学習を全児童生徒が体験できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ①一般学級・重複学級・高等部のコース制等課題は、多々あるが議論がすすまない現状がある。 ②3月において昨年度未実施の現場実習を4～5月に実施した。10月より学校行事、校外学習を感染予防に配慮しながら実施した。 	B B	<ul style="list-style-type: none"> ①課題を整理し、自立活動の個に応じた指導の充実に向け、外部支援(医師・理学療法士・言語聴覚士)を活用する。 ②社会参加に向けた活動は、制限されることも考慮しICTの活用も検討していくことが課題である。
4	<ul style="list-style-type: none"> 学校だよりやHPによる発信の充実。地域社会へ必要に応じて、特別支援教育の推進として、地域との連携を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①本校教育活動の魅力のPR ②東松山市等関係市町村との連携の深化 	<ul style="list-style-type: none"> ①教育実践、行事等のHPにおける発信をする。(毎週) ②東松山市等と連携し、支援籍学習、教育相談等を実施し、適切な就学・転学・進学先を決定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①児童生徒の活躍を毎週更新できたか。 ②該当機関と連携した、複数回提供されたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ①学校だよりの地元自治会・放課後デイへの発行。HPでの情報発信は、昨年度33回に対して今年度は2/1現在95回となつて、教育相談を電話40件、巡回相談17件、来校25件受けている。(2/1現在) ②小学校教員等研修の受け入れ。(10月) 	A A	<ul style="list-style-type: none"> ①学校だより、HPなど教育活動の発信は、組織的に取り組んでいく。②外部と学校での連携を新設の校内支援委員会を活用し全校で共有できるようにする。

学校関係者評価	実施日 令和4年2月18日
学校関係者からの意見・要望・評価等	<p>「児童・生徒の将来を見据え、一人一人の実態に応じた課題を考える」研究会を年間8回の研修計画を実行できたのは大いに評価できる。GIGAスクール構想に基づき、各種のICT化やタブレット端末の効果的な活用について、計画的に研修が行われている。この点について更なる研修と実践的な取組の繰り返しによるスキルアップにより、授業内容や教師の授業力の向上を望む。</p> <p>防災士を招いての避難訓練・引き渡し訓練や外部講師を招聘しての防災研修会を実施したことは、評価できる。長期間に及ぶコロナ感染予防に対する取組に敬意を表す。今後も感染予防をしっかりとつつ同時に災害が起きることも想定して日常的に指導してほしい。BCP(事業継続計画)の策定も検討してみたらどうか。</p> <p>自立活動の課題は、各専門分野の外部支援が重要であると思う。社会参加に向けた学習は、コロナ禍の現状では厳しいのではないかと、ICTを積極的に活用するような方法で計画を立てて欲しい。現場実習を実施できたのは大変評価できる。</p> <p>ネット社会の現在、HPでの情報発信はとても有効で特に写真も豊富で、学校の様子がよく伝わってくる。関係機関と連携し、情報を共有するとともに、センター的機能を発揮してインクルーシブ教育システムの更なる充実を期待する。</p>

